



ひだまり

社会福祉法人 東京都福祉事業協会

VOL 04

視線のさきに
広がる未来

(汐入とちのき保育園/歳児)



目次 CONTENT

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 01 テーマ「繋がろう、繋げよう」 | 09 サービスセンター長沼 |
| 02 藤崎理事長インタビュー | 10 「WITH」職員紹介 |
| 03 汐入とちのき保育園 | 11 「お元気ですか」 |
| 05 街紹介・南千住界隈(汐入とちのき保育園の地元) | 12 「HISTORY104」協会の歴史 |
| 06 浮間ハイマート | 13 協会からのお知らせ |
| 07 職員ピックアップ | 14 協会施設ICT化の現状 |

繋がろう、繋げよう



繋がることがことごとく否定された2年間でした。
ソーシャルディスタンスの名のもとに…。
この間、私たちが失ったものはとても大きい。
しかし、得たものも実は多いのではないだろうか。
フェイスtoフェイスからリモートへ、新しい繋がり方を知りました。
感染を防ぐ知恵もマナーとしてしっかり社会に根付きました。
これらは、ひとつの“文化”になるかもしれないですね。

それにも増して、私たち職員が得たものはもっと大きかったと思います。
それは、チームワークです。
パンデミックに一丸となって立ち向かったチームワーク。
保育所で、高齢者施設で、そして母子生活支援施設でしっかりと利用者を守り、
自らを律することができました。
たくさんの新しい知恵が現場から生まれました。
お互いに助け合う心も、大きく育ったと思うのです。



私たちはあらためて繋がることの大切さを再確認しました。
人と人を繋げることの意味も知りました。

さあ、新しい時代に向けてもっともっと、繋がろう、繋げよう。



コロナ禍、サービスセンター長沼に職員の提案で結成された「長沼楽団」のメンバー。
毎月1回行われるコンサートはディサービスのご利用者に大変喜ばれています。

5つの「感」を共に



社会福祉法人東京都福祉事業協会
新理事長 藤崎誠一

コロナ禍で奮闘する職員に向けて

今年7月に理事長に就任し、本来ならばすぐに各施設をお訪ねしたかったのですが、緊急事態宣言下ということで訪問を控えておりました。まずは、この紙面を借りてご挨拶をしたいと思います。

ところで、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックはこれまで私たちが経験したことのない事態です。その中で、当協会の福祉事業を利用している高齢者や子どもたち、保護者の方々を感染防止対策に万全を期しながら支えていただいている職員の皆さんに、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

私は理事長就任に当たって、以下の5つの「感」をもって当協会の事業運営に取り組むことを決意しました。「使命感」と「責任感」「連帯感」「達成感」、そして「幸福感」です。昨年からのコロナ禍において職員の皆さんにはすでに使命感と責任感、連帯感をもって奮闘していただいていると思います。これからは、一日も早くコロナ禍が終息して、役職員全員で達成感と幸福感を味わえるように願っています。

福祉事業への“思い”とは

私が「福祉」に携わったのは昭和50年から厚生省(現在の厚生労働省)において『老人福祉法』を担当してからです。それ以来、高齢者福祉を皮切りに生活保護、障害者福祉、介護保険、地域福祉と、一貫して福祉行政に取り組んできました。その間、強く感じたのは福祉を必要とする人々は「多種多様なサービスを望んでいる」ということです。

国はそれぞれの立場に立って、安心して生活できる制度政策を考える。しかし、制度政策も大切ですが、最も重要なのは福祉サービスを必要とする方たちに直接接している職員の皆さんのが「心」だと考えています。そして、国や事業者はその心にどう応えるか。それが問われているのではないかでしょうか。

協会が果たす役割と目ざすべきものは

東京都も少子高齢化は避けて通れない大きな課題です。そうした中で、保育や高齢者福祉など協会の事業はこれまで以上に重要性が高まり、果たす役割も大きくなると考えます。しかし、我が国の人口動態を見たとき、数年先には高齢者の数が減少に転じ、少子化によって子どもの数も確実に減っていくことは明らかです。したがって、当協会の高齢者福祉事業と保育事業についてはこれまで以上に「サービスの質の向上」を目指すと同時に、10年、20年後を見据え、計画的に事業を進めていくことが重要だと考えています。

職員の皆さんには、これまでと同様に一人ひとりが各自の役割を果たし、自己研鑽を積まれることを願っています。協会として精一杯支えていく所存ですので、よろしくお願ひいたします。

理事長ご自身の信条、大切にしている言葉は?

長年、公務員として社会福祉事業を中心に従事してきましたが、その間、いつも心の中にあったのが「公僕としての奉仕」です。常にそのことを心がけて実践してきました。日常生活で大切にしている言葉は「備えあって、憂いなし」です。あらかじめ計画を立て、結果について反省する。そのことによって次に繋げることが出来たのではないかと思っています。

私にとって心に残るエピソードをひとつお話ししたいと思います。厚生省に在籍中、介護保険の創設に向けた検討チームに参画しました。その後、福岡県に生活保護担当課長として出向したことがあります。ある日、突然、知事室に呼ばれて県内の72市町村が参加する『福岡県介護保険広域連合』の初代事務局長に任命されました。予期せぬことでしたが、市町村における福祉の実情を知る貴重な体験となりました。今後の協会運営に生かしたいと考えています。

汐入とちのき
保育園
Shioiritochinoki Hoikuen

自由な時間と場所のなか
子どもたちがのびのびと遊ぶ保育園



再開発により、街が一新された南千住の汐入地区にある汐入とちのき保育園。子どもたちが自由に保育室を行き来し、あそびを満喫するのびのびした保育園を訪ねました。

下町気質に育まれた保育園

ショッピングモールが立ち並ぶ南千住の駅前を通り抜け、マンションが林立する住宅街の一角、都営住宅の1階部分に「汐入とちのき保育園」はあります。隅田川の川べりにも近い一帯は、近年の大規模再開発で、戦前からの古い町並みが残る工業地帯から、利便性の高い住宅地へと変貌を遂げました。その再開発の中の2000年、「汐入とちのき保育園」は、運営が荒川区から東京都福祉事業協会へと変わることになり、公設民営の保育園として開設されました。「当時の汐入地域は労働者の街で、駅の反対側には『明日のジョー』の舞台となった山谷地



▲気分は運転中！

区もあり、不安も大きかったんです。けれど、次第に人情に厚い下町気質の住民に受け入れられ、地域の老人会とのお茶会などの行事、交流も始まりました」と立ち上げから関わった磯田園長は振り返ります。初代園長を務めた宮本先生は今も週1回保育園に通い、子どもたちを温かく見守り続けています。卒園児である「とちのきっ子」も参加する夏祭りや父子の絆を深める「父親の会」など、地域のさまざまな人と関わり合いながら、保育園を運営している様子が伺えます。

園児たちにとって、地域の中で育まれ見守られながら成長していくことができる恵まれた環境がこの地域には

あります。そして園は「とちのきっ子」(小学生まで)と「フレンズ」(中学生以上の卒園児)が、いつでも戻ってくることができる“ふるさとのような保育園”としてあり続けようとしています。

園全体が子どもたちの居場所

保育の特徴は、裸足保育や布オムツ、のびのびとしたあそび。園庭でも靴を履かない裸足保育は、土踏まずを形成し、足裏からの刺激によって発達が促されるから。布オムツを使うのは保育士がスキニシップを取りながらオムツを替え、心地良くすることで、信頼感や愛着が育まれるからと言います。

園内には、どこかのんびりとした空気が流れています。それは、クラスを開放し、子どもたちが自由に行き来できるようにしているからでしょう。例えば、事務室の園長先生の隣のテーブルも子ども達の遊び場になっています。給食を外で食べたいと思ったら、シートを敷いてピロティでピクニック。雨の日は傘を差して園庭をお散歩したり。「みんな違つ



▲プリンターの横でご飯



▲雨の日のお散歩



▲カタツムリの観察

てみんないい。その子なりの表現を受け入れたいと思い、園全体が子どもたちの居場所になるようにしているのです。これは全職員の思いです。」と、磯田園長。

空間だけでなく、時間もゆったりしています。声掛けはしますが、時計通りに動くことを重視はしません。「子どもの自由な意思を尊重したい。友だちは傷つけない、できることは自分でやってみよう、という最低限のルールは伝えますが、やるかやらないかは自由なのです」

集団生活の場で、時間と空間を区切らないというのは、保育士の対応力も問われます。布オムツも裸足保育も保育士の手間はかかるでしょう。職員は「子どもたちにとって」を何よりも大切に考えて

います。そういう環境の下、遊びを保証された、自然体の子どもたちの表情が印象的でした。今回はそんな子どもたちの様子を見るのが何よりも好きという磯田園長が撮りためた写真で構成しています。遊んだ跡や残された遊具が好きなのだとか。子どもの時間に寄り添う視点が伝わってきますね。



▲子どもたちの遊びの跡



保育士 小林 龍司さん

勤続11年目。人生の一番最初の時期に携わる仕事にやりがいを感じています。自分で考え、協調性を持って、困難を乗り越えられるような、生きる力をつけて欲しいと思い、保育をしています。保育はマニュアルがないので、周りの先生方に相談しながら、情報交換や共有をしっかりしています。職場は勤務時間の中で業務を終わらせ、有休もしっかりと消化出来るよう働き方改革が進んでいます。

調理員 植村 実和子さん

最初は調理補助として保育園で働いていました。自分の作った食事が身体の一部となって、子どもが成長していくのが目に見えることにやりがいを感じ、調理師資格を取り、1年前から調理員として働いています。季節感を大事に、国産野菜を使い、郷土料理もメニューに取り入れています。食育の一環で、地元の魚屋さんがきて、目の前でさばいて網焼きなどに調理してくれる解体ショーが好評です。



園長お気に入りの絵本 「でた！かっぱおやじ」

安曇幸子、伊野緑、吉田裕子著
サンパティックカフェ発行



「汐入とちのき保育園」には、下にカッパが棲んでいるという言い伝えがあります。園児たちは、保育園にやってきたかっぱおやじのストーリーが繰り広げられる「でた！かっぱおやじ」を自分たちに重ねて、愛読しています。著者は保育士で、実際の保育園での遊びが記録され、絵本化されました。



汐入とちのき保育園がある街

多彩な表情を見せる 懐の深い街 南千住

江戸時代から宿場町として栄えた南千住。今でもJR常磐線、東京メトロ日比谷線、つくばエクスプレスの3線が通り、交通の便の良いエリアです。いくつもの歴史が重なり、エリアごとに異なる表情を見せる魅力的な街を歩いて見ましょう。

駅の東側、近年の再開発によつて変貌を遂げた汐入とちのき保育園のある汐入地区は、ショッピング



▲汐入公園

モールや大規模マンションが充実し、子育てファミリーに便利な街。隅田川沿いには、広々とした汐入公園があり、川沿いをジョギングする人、のんびり散歩する人とそれ違います。保育園職員の行きつけだという街中華「胡弓」でランチを食べました。お手頃価格でしつかりとした味付けに大満足。引っ切りなしに出前の注文が来ているところを見ると、地元の人に愛されているのでしょう。

腹ごなしに歩いてみると、駅の西側には、昔ながらの商店街が残っていました。南千住仲通り商店街です。清潔感のある豆腐屋や保育園に出張して魚の解体ショーをしている「犬竹魚店」など、そぞろ歩きも楽しく、風情があります。ちなみに、豆腐と魚を買って帰ったのですが、とてもおいしく良心的な価格でした。近くには鰻の名

店「尾花」も立派な店構えを見せます。

ところが、駅の南側、旧日光街道沿いを下つていくと風景が一変。漫画やアニメ「あしたのジョー」の舞台となつた名残がそこかしこに見られます。苦境から抜け出し、栄光へとはい上がるジョーを象徴する「なみだ橋を逆にわたる」という名ゼリフが生まれた場所です。

通りをはさんで、線路をまたいで、全く異なる雰囲気に、この街の歩んで来たディープな歴史を感じます。興味のある方はぜひ歩いてみてくださいね。

職員おすすめのスポット

胡弓(中華料理店)

尾花(鰻屋)

浪花屋(たい焼き)



▲汐入地区的ショッピングモール



▲南千住仲通り商店街



母子生活
支援施設・
北区立浮間
ハイマート



▲丸囲み内 玉置さん、村上さん
後列左から 隅さん、野口施設長、平井さん、高梨さん
前列左から 山田主任、黒田さん、佐藤(幸)さん、佐藤(千)さん

イベントにかわって こころと心を繋いだ贈りもの

母子生活支援施設「北区立浮間ハイマート」は住宅地の一角にあります。様々な事情を抱えるお母さんと子どもたちを日夜支える中で、1年半にわたるコロナ禍をいかに乗り越えたのだろうか。そこに見えたのは、いつもと変わらない職員の細やかな心配りでした。



コロナ禍で施設の役割を果たした

平日の昼下がりということもあり、施設内はひっそり静まり返っていました。子どもたちが学校に行っている時間だからだろう。野口施設長と母子支援員の黒田さんが待っていてくれました。

コロナ禍で最も気を使ったのは、利用者はもちろん職員からも感染者を出さないことです。これに尽きます、と野口施設長。一方、利用者にとっては生活の場でもあることから、みんなが楽しみにしていた夏祭りや餅つきなどの年中行事を中止せざるを得なかつたことが「心苦しい」とも。

「1回目の緊急事態宣言の時は利用者の不安が大きかったのでは」と、常に利用者近くで寄り添う黒田さんが言います。普段は利用者が交流する場となっている共有スペースからも、子どもたちの遊ぶ声が消えてしまった。

そんな中、社会の“ひずみ”を受け止める母子生活支援施設ならではの現象があったと言います。コロナ

禍の影響なのだろう「緊急一時保護」の利用者が急増、そのために用意されている2部屋が常に埋まっている状態だった。利用できるのは原則数週間ですが、職を失った女性など10家族ほどが支援を受けたという。最近は母子ではなく、単身女性の利用者も増えている。世相を色濃く映す施設ならではのコロナ禍ではなかったか。

職員の心温まる手紙を添えて

行事を中止したことで利用者はともかく、退所した人との繋がりが薄くなるのはさみしいと、職員はひとつのアイディアを思いつきました。イベントではなく「プレゼント」で繋がろう、と。いつもは餅つきをする時期にささやかな贈り物を、そしてお花見のころには桜の花を感じさせてくれる小物を贈りました。「コロナ禍でも困ったことがあつたら遠慮なく連絡してね」などと書かれた職員からの手紙と一緒に…。こんな時期だからこそ「何かしてあげたい」と

いう気持ちから生まれた、心温まるエピソードです。

いつの時代もそばに寄り添う安心感を

かつて誰もが経験したことのないコロナ禍は、社会的セーフティーネットのひとつに数えられる母子生活支援施設の存在意義を、改めて考えさせられる機会ともなりました。いつも、365日、専門の資格を持った職員がそばにいてくれる安心感、そして生活を立て直すために、ともに支援計画を考えてくれる母子支援員と子どもの健全な育成を支援する少年指導員。「日々、何気ない会話を楽しんでくれている」お母さんや子どもたちの姿に自らの使命感が重なる黒田さん。どんな時代でも対面の仕事は変わらないと言います。野口施設長は地域のために引き続き「子育て支援」にも取り組んでいきたい語ってくれました。どんな時代でも変化に合わせた支援を目指す北区立浮間ハイマートです。

職員紹介

頑張れ、リーダー・副主任・生活相談員

引っ張る！繋げる！盛り上げる！

今回の職員紹介は現場の最先端に立って利用者に向かい、後輩を支え、経営層をサポートするリーダー、副主任、そして生活相談員の皆さんに登場していただきました。いずれも個性派ぞろい。優しく、時には厳しく、頑張っています。



**王子隣保館
保育園**
シニアリーダー
保育士
松田 友香里

- ①牛タン
- ②陶芸
- ③虫
- ④エグザイル(EXILE)
- ⑤「おしこもれたろう」
- ⑥寝ること
- ⑦自分の作った器で食事を楽しむこと



**八王子隣保館
保育園**
リーダー
保育士
大原 まゆみ

- ①サーティーワンアイス、焼き肉
- ②旅行(沖縄大好き)
- ③早起き
- ④嵐、アムロちゃん
- ⑤おさるのジョージの絵本
- ⑥甘いもの、お出掛け、寝る
- ⑦休みで出掛ける時 晴れることが多い



**方南隣保館
保育園**
リーダー
保育士
横田 佳代

- ①餃子、チーズ、スイーツ全般
- ②食べること、街探索＆食べ歩き、ライブ、ラジオを聴く、ジョギング、片付け、冷蔵庫にあるもので料理
- ③虫、散らかっている部屋、カビ、ギャンブルする人、大人數での集まり
- ④DAPAMPのISSAさん、安室奈美恵、オードリー、和牛、ナインティナイン、加藤浩次
- ⑤20世紀少年(世界に引きずり込まれる)、コウノドリ(すごく感動、命の大切さを再認識)
- ⑥身体を動かす(ストレッチ)
- ⑦ライブ、甘いもの、海を見る、良いお天気の日の洗濯、泣く
- ⑧沖縄が好きでよく行くので、おすすめの場所、ごはん屋さんとかビーチとか聞いてもらえば答えられます



**汐入とちのき
保育園**
サブリーダー
保育士
御守 友希乃

- ①とちのきの松風焼、牛タン塩、パイナップル
- ②体を動かすこと、どこでも寝れる
- ③レバー、一部の虫
- ④石原さとみ
- ⑤100かいだてのいえシリーズ、スラムダンク
- ⑥公園めぐり、旅行、おでかけ
- ⑦体力がある、病気にならない



**尾久隣保館
保育園**
シニアリーダー
保育士
浦井 孝晴

- ①551の肉まん
- ②プラモデル作り・バスケットボール
- ③蜘蛛・お化け屋敷
- ④松岡 充 ⑤辻村深月
- ⑥お風呂で長湯すること
- ⑦自分の描いた絵が上野国際西洋美術館に展示(小学生の時のコンクール)された



**上十条南
保育園**
副主任
保育士
肘井 志穂

- ①納豆(毎日食べます)
- ②野球観戦
- ③絶叫系のアトラクション
- ④星野源
- ⑤おやつトランポリン
- ⑥飲酒(ビール)
- ⑦腹筋



赤羽北のぞみ 保育園

副主任
保育士

三浦 幸子

- ①焼肉
- ②スノーボード・フットサル
- ③虫
- ④わたなべ なおみ
- ⑤考え中
- ⑥フットサル後のアルコール(笑)
最近は出来てないですが(汗)
- ⑦空手黒帯 初段



ハイツ尾竹

シニアリーダー
母子支援員

深谷 真人

- ①焼肉
- ②友人と話している
時間が好きです
- ③セロリ
- ④志村けん
- ⑤スラムダンク(漫画)
- ⑥友人と食事に行くこと
- ⑦健康にちょっと気を
つかっています



浮間ハイマート

シニアリーダー
母子支援員

村上 恵理

- ①お寿司(まぐろ、アジ、鉄火巻、カツパ巻が特に)②SNSで赤ちゃんパンダの成長をチェックすること。
- ③幼虫④テニスのビッグ3、フェデラー、ナダル、ジョコビッチ⑤宇宙旅行のガイドブック「るるぶ宇宙」この本を企画して作った人たちの本気の遊び心が伝わってきて、見ているだけで楽しい。⑥おやつを食べながらテレビ、好きなことをする、お風呂、トーク時間、外で生ビールを飲む
- ⑦最近買ってみたカレールーが当たりだったこと。おいしかった!



板橋区立 母子生活支援施設

シニアリーダー
母子支援員

鈴木 伸子

- ①蒙古タンメン中本辛旨飯
(セブンプレミアム)
- ②人間観察
- ③目が丸く大きい生物
- ④樹太一アナウンサー
- ⑤いやいやえん
- ⑥野球観戦(少年野球)
- ⑦好き嫌いなく何でも食べます。



長寿園

主任
介護職員

松井 佑樹

- ①寿司
- ②野球
- ③ホラー系
- ④ダウンタウン
- ⑤名門!第三野球部
- ⑥お酒
- ⑦体が丈夫



赤羽北さくら荘 (浮間包括)

生活相談員

浦本 龍典

- ①ポテトチップス(うすしお味)、一番搾り(大瓶)、大王のネギ塩(赤羽一番街の名店)
- ②キャンプでBBQ
- ③高層階(7階以上)、虫(虫ずが走る)
- ④綾瀬はるか(日本の宝)、辰吉丈一郎、チョウ・ユンファ
- ⑤さよならキャンドル、東京ラブストーリー
- ⑥サウナ、焚火
- ⑦某地域限定のうまい米焼酎が手に入る



東日暮里 サービスセンター

副主任
事務員

大出 恭生

- ①寿司、刺身、ポテロング
- ②小学生サッカー、少年団のコーチ
- ③セロリ
- ④超雲子龍(三国志)
- ⑤キングダム、ワンピース
- ⑥キャンプで焚火
- ⑦以前牧場に勤めていてサラブレットに乗っていた



サービスセンター 長沼

副主任
生活相談員

東條 晴美

- ①八王子ラーメン
- ②サックス、エアロフォン(バンドをやっています)
- ③縫物や編み物、工作など手先を使う物
- ④松任谷由美 伊勢賢治
- ⑤ワンピース
- ⑥好きな音楽を聞く
- ⑦サービスセンター長沼の楽器が出来る職員で「長沼楽団」を作り、月1回利用者さんに演奏会をお届けしています!!

サービスセンター長沼

コロナ禍で地域に果たした デイサービスの大きな役割と可能性



▲前列左より 三好 介護職員兼生活相談員・宮 看護職員・東條 副主任生活相談員

渡邊 事務職員・杉野 看護職員

中列左寄り 若井 調理職員・佐藤 管理栄養士・松本 介護職員・藤澤 介護職員
中列右寄り 大塚 調理職員・宮崎 調理職員
後列左より 関谷 介護職員兼生活相談員・神田 主任生活相談員・尾崎 運転手
後列右より 川内 介護職員・磯貝 運転手・染谷 運転手・尾崎 運転手

1年半近くに渡って、職員は緊張の連続だったと言います。感染防止のために様々な工夫をしました。長沼名物の体操の間に小まめに換気を行い、テーブルの間隔を空け、食事中はパネルを立てて利用者に「黙食」をお願いしました。しかし、大きなクラスターを発生させることなくこれまで無事にこられたのは「ひとえに職員の努力があつてこそ」と、菅原施設長。全職員が不要不急の外出を控えるなど、自己管理も徹底してくれました。「職員一人ひとりの力がしっかりと繋がつていなければ、こういった大きなデイサービスの事業は成り立たないことを再確認

職員一人ひとりが繋がつてこそ乗り越えられる
八王子の郊外、ゆったりと流れ浅川のほとりに「サービスセンター（SC）長沼」があります。今日も広々としたデイサービスのフロアは多くの高齢者の方で賑わっていた。ちょうど午後のレクリエーションの時間。皆さん、楽器に合わせて楽しそうに「懐メロ」を口ずさんでいました。いつ訪れてもどこかあたたかな空気が流れれるSC長沼です。

施設長の菅原さんにコロナ禍での職員の方の奮闘ぶりを聞かせていただきました。SC長沼も1年半近くに渡って、職員は緊張の連続だったと言います。感染防止のために様々な工夫をしました。長沼名物の体操の間に小まめに換気を行い、テーブルの間隔を空け、食事中はパネルを立てて利用者に「黙食」をお願いしました。しかし、大きなクラスターを発生させることなくこれまで無事にこられたのは「ひとえに職員の努力があつてこそ」と、菅原施設長。全職員が不要不急の外出を控えるなど、自己管理も徹底してくれました。「職員一人ひとりの力がしつかりと繋がつていなければ、こういった大きなデイサービスの事業は成り立たないことを再確認



▲菅原施設長

みんなを勇気づける 「長沼楽団」のユニークな活動

コロナ禍ということで利用者の「利用控え」も懸念されました。一時期、新規の利用開始が限定的だつたものの、最近は家族からの問い合わせや見学が多くなり、徐々に利用者増の傾向とのこと。人ととの交流が制限されるコロナ禍だからこそ「デイサービスに通う楽しさ、有難さが再確認されただろうか。しかし、職員にどうつらかったのは「いつものサービスが出来ないこと」。ダンスや演奏をしてくれたボランティアの人も来られない。ならば「自分たちで盛り上げよう」と、楽器が弾ける職員を中心にバンドを結成してしまった。その名も「長沼樂団」。ちょっとと Sherman のネーミングだけど、月に1回、定期的に演奏会を行っています。その日に

合わせて利用日を調整する利用者もいるとか。

エアロフォンとボーカルを

当する副主任生活相談員の東條さんは言う。評判がいいのを受け

て「法人のほかの高齢者施設など

も演奏したい」と。メンバーは

ながらも、菅原施設長にとって氣

持ちの上では「おみやげ」を沢山も

らった1年半だったようです。



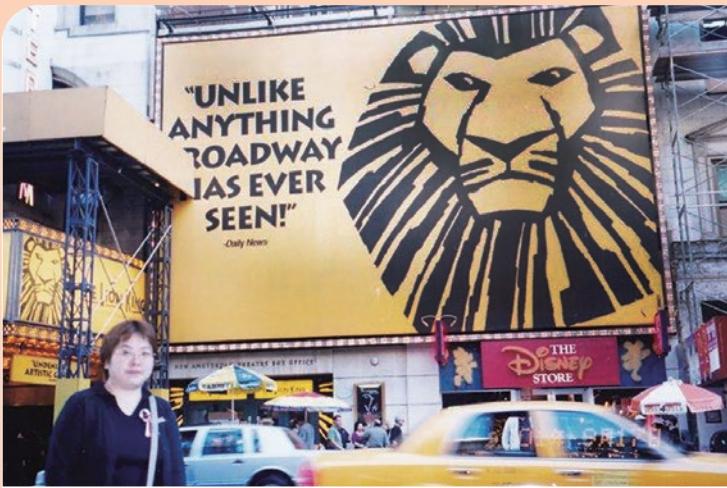
▲「長沼楽団」の演奏会

東條さんに加えてベースを担当する菅原施設長、エレキギター担当の介護職員兼生活相談員の三好さん、マンドリン担当のドライバー・山本さん、そしてドラムスは近隣に住む天野さんがボランティアで参加しています。コロナ禍を理由に何かと「制限」するこのばかりに目が行く中、長沼楽団の活動は利用者のみならず法人全体の職員をも勇気づける、画期的な取り組みではないだろうか。明るい中にも緊張感をもつて日々の業務に励む『サービスセンター長沼』の職員の皆さんに感謝です。

WITH

あの職場に、こんな人、あんな人

9・11、あの日から20年 アメリカ同時多発テロから学んだこと 旅行先で遭遇した



▲タイムズスクエア 観劇

幼い時からの夢だった保育士になり、毎日できる限りの力を尽くして働いている私にとってのご褒美、リフレッシュは旅行することです。そんな私はずっと行ってみたい場所がありました。

小学生の時に見ていましたテレビ番組「アメリカ横断ウルトラクライズ」の決勝

の地であり、大好きなミュージカルの本場ニューヨークです。

2001年9

月、憧れの地ニューヨークへ。出発日は11日。前日からの雨と風で予定していた成田エキスプレスが運休し、飛行機の出発ゲートが変更になり、出発も大幅に遅れるなど、ハブニングが重なって

不安な思いもありましたが、憧れの地ニューヨークにいよいよ行けるという期待と喜びの気持ちが強かつた私です。機内の照明が薄暗くなつてウトウトしていたとき、通路を激しく往来する客室乗務員の足音で目が覚めました。しばらくして「この飛行機はアラスカ州アンカレッジ国際空港に向かいます」とのアナウンス。何の説明もないまま、早朝アンカレッジ国際空港に到着しました。ほかの飛行機も続々と到着し乗客を降ろしている。何があったのだろう。

テレビから流れる映像を目にして、初めて事の重大さを知りました。そして、ニューヨークで起きたテロの影響でアメリカ本土の全ての空港がクローズになつていることも…。

とりあえずアメリカ政府が用意した高校の体育館に移動することになり、アラスカ州の日本領事館の方も同行してくれました。そこで受付をしていたのが中学生ぐらいの女の子、荷物を運んでもくれたのが小学生2年生ぐらいの男の子。みんな笑顔で対応してくれました。こんなにも自然にボランティア生活を送つていて、街も活気に溢れていました。



久保田 真里さん
方南隣保館保育園
副主任保育士

をしていることに驚き、感動したのを覚えています。また、地域の人々が自宅から必要な物を持ってきていただき、企業やお店が食べ物などを提供してくれました。その夜は日本領事館と旅行会社の方が探してくれたペンションで過ごし、ようやくニューヨークに向けて飛び立つたのは、翌日の夜中12時を回っていました。

ケネディ国際空港は人混みでごった返していました。そんな中、旅行会社の方が毅然と対応してくれたことが忘れられません。ホッととして涙がこぼれたことを覚えています。翌日、空港で帰国に向けた搭乗手続きをトライしましたが、数日間飛行機に乗ることができませんでした。崩壊したビルの廃材を片付けるダンプカーに他の車が道を開け、歩道を歩いている人々が立ち止まって拍手を送っています。その姿に感動し、思わず拍手をしていました。ミュージカルで見たタップダンスの迫力も忘れられない思い出です。帰国出来たのはニューヨーク4日目の朝でした。

職場のみなさんは出勤した私に「大変だつたね」「無事に帰れてよかつた」と口々に言葉をかけてくれたことが忘れません。あの時たくさんの人の優しさに触れたことで、「大変な時こそ人に優しく笑顔で接する」大切さを忘れず、これからも日々過ごしていきたいと心に強く思いました。また、この旅でボランティア活動の大切さを実感したこと、大きな収穫でした。災害が多い日本で自分に出来るとは何だろう。そんなことも考えながら過ごしています。

お元気ですか

その人に興味を持つことから コミュニケーションは始まる

今回のインタビューに当たって、職員の皆さんから
大先輩深田眞人さんにまつわるエピソードを募りました。
そこから見えてくるのは人間味にあふれた生き方であり、
部下や同僚、仕事に対する愛情の深さでした。

深田 真人 元施設長
〔現評議員〕



まず、行動する

深田さんが福祉の世界に足を踏み入れたのは、友人に紹介された『方南母子寮』でのアルバイトがきっかけでした。明治大学に入学間もなくのころです。その時の友人の言葉が「まだ」忘れられないと言います。「まず、行動する」理論付けは行動してからでも出来る。深田さんはこの言葉を仕事を通じて実践し、後輩たちにも言い続けてきました。そんな言葉に背中を押されて入った母子寮の仕事に、深田さんはすっかり魅せられてしまいします。人を相手にする仕事は毎日変化があつて面白かった」と深田さん。そのまま協会に就職します。以来、母子生活支援施設と高齢者施設を中心に協会で福祉一筋の人生を歩き続けて約50年。現在も法人の評議員として深田さんの薫陶を受けた後輩一人ひとりの成長を見守っています。

自分を正直に出す

人が好きでなければ福祉の仕事はできない」と言う深田さん。母子の仕事をしているときから「自分を正直に出す」そして「相手に正直に向き合う」、このことを必ず心の隅に置いて仕事をしてきたと言います。そのためにはまずは自分自身が健康でなければならぬ、と。「体であれ、心であれ、健康をしっかりと守つて、そのうえで日々の

積み重ねが自分を成長させてくれることに、高齢者の方は人生の大先輩。いろいろなことを教えてくれる先生でもある。だから、自分をさらけ出して仕事にぶち当たる。「楽しみ」などというの明治大学に入学間もなくのころです。その時の友人の言葉が「まだ」忘れられないと言います。「まず、行動する」理論付けは行動してからでも出来る。このひと言が印象に残りました。「その人に興味をもて。コミュニケーションはそこから始まる」。

深田さんは今、70歳後半を迎えて少し健康への不安をお持ちですが、「仕事がしたい」と力を込めて話してくれました。座右の銘は、との問いに「死ぬまで生きる」と、深田さんの人柄そのままの答えが返ってきました。生きている限り「いきいき」としてみたい、と。

どこまでも仕事と人間が大好きな深田さん。これからもお元気で。●私が産休中に突然我が家を訪ねてくださったときのことです。我が子を抱きながら仕事から帰ってきた初対面の夫に「お帰り」と声かけると、夫が「お邪魔します」と応えて、大笑いしたこと覚えています。

●とにかく楽しいことが大好きで、子どもたちも大好き。何をやるにも全力で、考えるより動け!を率先して体現する「親方」のような施設長でした。●楽しいことが大好きで、余力があるときは買い物に出かけ、ビーフシチューーや煮込み料理を作ってくれました。●成長したわが子にも会ってほしいし、またみんなで遊びたい。●悪いこともいっぱい教えてもらいました。フルグチもたくさん書けます。

職員から寄せられた 深田さんのエピソード (抜粋)

●母子支援施設でのこと。小学生の利用者がいじめられていると聞いた深田さん。黙つて立ち上がって施設を出て行き、しばらくしてその子を連れて帰つてきました。その時、「頭で考えるのではなく、一刻も早く行動すること」を学びました。

●江戸前のコミュニケーションと寡黙な傾聴。どちらにも共通していたのは、



▲昭和42年頃、方南母子寮でアルバイト

子どもたちに過酷だった都会の盛夏。
てんじゅうほいく
協会は「転住保育」という名の
お泊り保育を行って、
子どもたちの健康を守った。

協会発足の年から始まった
画期的な夏期転住保育事業

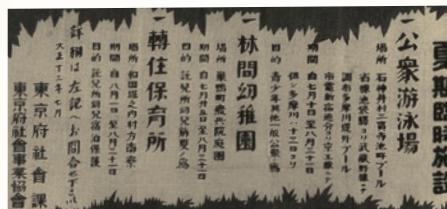
令和2(2020)年末の流行語大賞の9位に「ソロキャンプ」が選ばれましたが、そもそもキャンプは組織キャンプ、個人キャンプ、家族キャンプに大別されます。中でも「組織キャンプ」は学校やボイスカウト等で行われてきたもので、協会ではキャンプという言葉が一般的になるずっと以前、大正時代に「転住保育」という名で子どもたちのキャンプを行っていました。

協会が発足した大正6(1917)年8月、最初の夏期転住保育事業が行われました。会員保育所のうち数か所が連合し、協会の統率のもとに千葉県八幡宿の海辺で15日間、比較的身體虚弱な約50人の保育児童を転住させたものです。この試みは子どもたちの心身の健康増進に素晴らしい効果をもたらし、引率者として参加した保母の親睦にもなりました。協会としてはこの年限りの臨時事業でしたが、その後各団体で実施され、関東大震災(大正12(1923)年9月1日)後の取り組みにも繋がりました。

震災後初めて夏を迎えるにあたり、トタン張りバラックが密集する都会の生活は大変な有様。昼間の保育所も周囲の状況、設備が不完全で、子どもの元気を維持するのに必要な休息すら与えることができない—というのが現実でした。

酷暑から子どもたちを守った
行き届いた設備と配慮

このような看過できない実情のため、協会は各機関に諮り、大正13年の盛夏、『臨時林間幼稚園』と『転住保育所』を開設しました。林間幼稚園(所在



▲転住保育

▲夏期臨時施設案内

は西巣鴨の軍事救護施設内、日帰りの利用)は集団バラック付属(千駄谷託児所、植物園託児所)ならびに付近の託児所の幼児を主とし、小学1・2年生までを保母の保護の下に日帰りで順次避暑させました。市営乗合自動車(バス)10数台で日々送迎を行い、来園児児はおおむねブランコやすべり台など「新設運動具」よりも樹間で遊ぶことを楽しんだということです。

転住保育所は交通等の関係上、林間幼稚園に参加困難な託児所幼児および身体がやや虚弱で、長期間清涼な地域に保養させ、栄養食を与えて健康の増進、精神の転換をはかる必要がある幼児を、医師および保母の監督の下に盛夏の一時期転住させたものです。

転住保育所は現在の方南隣保館保育園付近に設置されました。当時としては、東京市域からさほど遠くないうえ、近くには玉川上水があり、上水を隔てて富士を仰ぎ、雑木林が点在して武蔵野の面影を留める恵まれた環境になりました。設備は建物内に児童室、洗面所、炊事場、係員控室、広間(食堂および遊戯室)、事務室、医务室、休養室、湯殿、足洗いおよび洗濯場等が用意され、外にはプール、金魚池、ブランコ、すべり台、砂場、腰掛、築山、日除け等を備えたと記録にあります。

衣服は、日中は運動しやすく衛生上も適当なタオル製チョッキと手拭地

のパンツを使い、夜は米国寄贈の綿ネルの寝衣に着替えました。保健衛生に関してはとりわけ注意を払い、東京府済生会医師1名および看護婦1名が常在し、日々身体検査を行ない、疾患等について治療を行いました。このような日課と配慮のなかで、子どもたちはさぞ健康な生活を送ったことと推察されます。子どもたちの就寝後、保母は打ち合わせ会で意見の交換等を行ない、相互の研鑽に励んだということです。

なお、この転住保育所では、近接する協会管理和田堀内小住宅居住の子どもたち64人も「幼稚園式」で毎日預り保育をしました。協会が和田堀隣保館を開設し、この子どもたちのための保育が始まったのは翌年の大正14年5月からです。

太平洋戦争後にアメリカから「(教育的)組織キャンプ」の考えが伝わり、その意義や必要性が教育研究者等の中で広まったということですが、既に日本でも「転住保育」等の名でその意義は十分確認され、協会においても実践していました。新型コロナウィルス感染症により、お泊り保育や母子宿泊行事は困難になってしまっていますが、近い将来の復活が待たれます。



▲林間幼稚園

協会からのお知らせ



1.「10の取組方針」について

高齢者施設では、協会の「経営理念」及び「経営方針」並びに「経営目標」を着実に実現するため「10の取組方針」を樹立しました。保育園及び母子生活支援施設においても「10の取組方針」の趣旨を理解し、共通する事項について協会全体として取り組んでいくこととしておりますので、よろしくお願ひいたします。

東京都福祉事業協会は、「一人ひとりの幸せと安心のために」を基本に、法人の「経営理念」及び「経営方針」並びに「経営目標」を掲げています。これらのことを見実現し、ご利用者の皆様に対して提供する高齢者介護サービス等について、以下の「10」の視点に立って役員及び職員一同が一丸となって取り組んでいくことをここに「宣言」します。

[10の取組方針]

- I 虐待や身体拘束等の無い介護サービスを提供します
- II 適切な認知症ケアを実践します
- III 新しく優れた介護技術等を積極的に取り入れていきます
- IV 専門家の客観的な視点からの介護サービス等の改善策の提案、それを受けての実践とその後の評価を行います
- V 介護技術・手法の習得により、防げる転倒、骨折等を起こさないようにします
- VI 感染症対策等更なる衛生管理の向上に努めます
- VII 利用者本位の相談体制の構築に努めます
- VIII より選ばれる施設サービス、特色ある介護サービスへ転換していきます
- IX 職員の人材育成とキャリアアップを図ります
- X 施設、事業所、法人本部が一体となって行動します

令和3年10月

社会福祉法人 東京都福祉事業協会理事長 藤崎 誠一
役職員一同

2.規程の改正等

(1)高齢者施設の運営規程の改正

令和3年度介護報酬改正に伴う高齢者施設の運営規程の料金表の改正を行いました。(令和3年4月1日適用)

(2)「保育所及び母子生活支援施設処遇改善手当支給要綱」並びに「高齢施設処遇改善手当支給要綱」の改正

処遇改善管理職手当及び処遇改善主任手当等について職責に応じた手当に改善するため、両要綱の改正を行いました。(令和3年4月1日適用)

(3)赤羽北さくら荘運営規程の改正

令和3年4月の介護報酬改正の際、北区においては北区総合事業(独自サービス)の料金改正を半年延期し、令和3年10月1日から適用することされ、①赤羽北さくら荘デイサービスと②赤羽北さくら荘ホームヘルプサービスに係る料金表の改正を行いました。(令和3年10月1日適用)

3.労働災害をなくしましょう

災害発生原因は、①ぶつける・当たる32%、②転倒25%、③自転車14%、④腰痛13%、⑤その他16%となっています。特に、転倒や自転車による事故は治癒までに長期間を要するケースもありました。十分に安全を確認し作業を行い、自転車通勤は交通安全を徹底するようお願いします。

労災発生状況(件数)

| 区分 | 2年度 | 元年度 | 30年度 | 29年度 | 28年度 | 27年度 | 26年度 | 25年度 |
|--------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 休業4日以上 | 4 | 4 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| 休業1~3日 | | 5 | | | | 3 | | |
| 休業なし労災 | 12 | 12 | 11 | 7 | 9 | 11 | 7 | 4 |
| 計 | 16 | 21 | 13 | 10 | 10 | 16 | 8 | 5 |

4.新理事長及び新常務理事並びに法人本部の人事異動について

ご承知のように田中敏雄理事長と本田章博常務理事は退任され、令和3年6月29日付で藤崎誠一理事長と秋山寛常務理事が理事会において選定されました。

また、令和3年7月1日付で、角田宗広事務局長と佐々木敢介経理部長が就任されています。戸村前経理部長は戸村コーチとして引き続き経理部門を担当しています。



協会におけるICT化の現状について

ICT:Information and Communication Technology・情報通信技術

働き方改革および事務の効率化等を図るうえで、ICT化の推進は喫緊の課題です。

協会も会計経理から各事業所の事務処理等に至るまで積極的にICT化を進めていますが、現状は以下の通りです。

1.会計経理

法人本部と各施設がインターネット（外部からの侵入不可）により情報を共有している。予算入力→日々の伝票入力→月次試算表→決算書

2.給与計算

- ・保育園（八王子隣保館保育園を除く）、ハイツ尾竹、赤羽北さくら荘、東日暮里SC、SC長沼については給与計算ソフトにより給与計算を行っている。
- ・母子生活支援施設（ハイツ尾竹を除く）、長寿園、本部では、表計算ソフトを活用し給与計算を行っている。
- ・八王子隣保館保育園は給与計算業務を外部業者に委託している。
- ・法人本部と各施設とはメールによる情報共有。

3.栄養計算

- ・7保育園、3高齢者福祉施設（長寿園、さくら荘、東日暮里SC）では栄養計算ソフトによる栄養計算。献立作成→栄養計算→発注、実施記録。施設間でのインターネットによる情報共有なし。ただし、長寿園では、栄養計算等の一連の作業を外部委託。
- ・SC長沼は、献立作成と栄養計算は表計算ソフトにて、発注、実施記録は手書きで行っている。

4.処遇面

(1)保育園

| 施設 | 自動メール配信 | 登降園管理 | 児童票 | 月案・週案 | 日誌 |
|------|---------|-------|-----|-------|-----|
| 王子 | ○ | 手書き | 手書き | 手書き | 手書き |
| 方南 | ○ | ○ | 手書き | 手書き | 手書き |
| 尾久 | ○ | ○ | 手書き | 手書き | 手書き |
| 八王子 | ○ | ○ | ○ | 手書き | 手書き |
| 汐入 | ○ | 手書き | 手書き | ○ | ○ |
| 上十条南 | ○ | ○ | ○ | ○ | 手書き |
| のぞみ | ○ | 手書き | 手書き | 手書き | 手書き |

<特記>

- ①王子では、午睡センサー（突然死症候群予防）の導入。
- ②方南及び尾久では、登降園管理（タッチパネル方式；登降園の際、保護者が玄関の端末（タッチパネル）に指でクラス・児童名をタッチ、登降園時刻の記録→延長保育料金計算等）を導入したが、新型コロナ感染症により使用中断中。
- ③八王子では、登降園管理（顔認証・検温付き、双子は間違えないが、よく似た園児でエラーが時々あり、検温を含めチェックを必要とする、園児の顔認証により登降園時刻の記録→延長保育料金計算等）。
- ④汐入とちのきでは各クラス分のパソコンは確保、保育計画、日誌等を電子データ化（表計算ソフト）。午睡センサー（突然死症候群予防）。
- ⑤上十条南では、登降園管理（カード（バーコード）・タッチパネル方式の併用で、カード方式を推奨）。児童票・個人目標が連動（表計算ソフト）、月週案・保健日誌はソフトによる作成。

(2)母子生活支援施設

- ①ハイツ尾竹では、（ソフトにより）指導計画・ケース記録・日誌（事業日誌・母子支援員日誌、少年指導員日誌）が連動。
- ②浮間ハイマートでは、パソコンによるケース記録作成、データを共用のハードディスクにバックアップ。
- ③板橋区立母子支援施設では、（サーバーで）連絡帳（職員間の申し送り）の共有（ソフトなし）。

(3)高齢者施設

介護請求システムを導入、介護計画（プラン）作成→実績入力→介護請求（保険負担分と利用者負担分）、他事業所からのプランやサービス実績については、FAX（紙ベース）による情報を施設・事業所が入力。

<特記1(介護システムソフトによるもの)>

- ①長寿園では、施設介護計画・ケース記録・看護記録へ連動。
- ②赤羽北さくら荘特養・赤羽北さくら荘デイでは、利用者のバイタルチェック等をタブレット端末に入力→申し送り事項・介護計画・ケース記録・看護記録等に連動。
- ③東日暮里デイはタブレット端末にバイタル・出欠・入浴・利用者記録を入力→介護請求・ケース記録・介護記録・日誌・連絡帳等に連動（音声入力も可能）。提供票・実績の標準仕様データ連携についても、可能であるが、現在データ連携に賛同しているケアマネ事業所は2事業所のみ。

<特記2(ロボットによるもの)>

赤羽北さくら荘特養では、①転倒予防のための離床センサー、②入浴の移乗介助のための自立支援浴槽のシャワーキャリー、③ベッドから車いすへの移乗の負担を軽減するための移乗用リフトをそれぞれ導入。

(4)三日小学童クラブ

荒川区への報告で「学童クラブ」、「にこにこスクール」とともに、それぞれ日誌及び月締め事業実績報告を区所定のフォーマットで管理。



社会福祉法人 東京都福祉事業協会

協会施設の一覧

保育園

王子隣保館保育園
上十条南保育園

方南隣保館保育園
赤羽北のぞみ保育園

尾久隣保館保育園

八王子隣保館保育園

汐入とちのき保育園

母子生活支援施設

ハイツ尾竹　　浮間ハイマート　　板橋区立母子生活支援施設

高齢者福祉施設等

長寿園
赤羽北さくら荘
東日暮里サービスセンター
サービスセンター長沼

特別養護老人ホーム
特別養護老人ホーム、デイサービス、地域包括支援センター、訪問介護、居宅介護支援等
デイサービス、学童クラブ
デイサービス、地域包括支援センター、居宅介護支援

ひだまり  (VoL.04)

■発行日 2021年12月

■発行 社会福祉法人 東京都福祉事業協会 〒114-0002 東京都北区王子2-19-21 TEL 03-3911-3679 FAX 03-3911-6498